

## 抗インフルエンザ薬の分類と特徴

そろそろインフルエンザシーズンが始まります。最近になりいくつかの抗インフルエンザ薬が新しく登場してまいりましたので、各特徴などについてまとめてみました。

作用機序		ウイルスリポ核蛋白の宿主核内への侵入を阻止	ノイラミニダーゼ阻害作用			
投与経路		経口	経口	吸入		注射
商品名		シンメトレル	タミフル	リレンザ	イナビル	ラピアクタ
一般名		アマンタジン	オセルタミビル	ザナミビル	ラニナミビル	ペラミビル
適応	治療	○	○	○	○	○
	予防	×	○	○	×	×
	成人	○	○	○	○	○
	小児	×	○	○	○	×
用法・用量		<治療> 1日100mgを分1～2回	<治療> ・成人及び体重37.5kg以上の小児;1回75mgを1日2回、5日間 ・幼小児;1回2mg/kgを1日2回、5日間 <予防> ・成人;1回75mgを1日1回、7～10日間 ・体重37.5kg以上の小児;1回75mgを1日1回、10日間 ・幼小児;1回2mg/kgを1日1回、10日間	<治療> ・成人および小児;1回10mgを1日2回、5日間 <予防> ・成人および小児;1回10mgを1日1回、10日間	<治療> ・成人・10歳以上の小児;1回40mgを単回吸入 ・10歳未満の小児;1回20mgを単回吸入	<治療> 300mgを15分以上かけて単回点滴静注 重症時:1日1回600mgを15分以上かけて単回点滴静注するが、症状に応じて連日反復投与
腎障害時の用量調整の必要性		有	有	無	無	有
利点			・投薬、内服が容易	・タミフル耐性ウイルスにも有効 ・タミフルが使用できない10歳代にも使用できる	・投与回数が1日で済む ・タミフル耐性ウイルスにも有効の可能性	・重症患者に投与が容易 ・投与回数が1日で済む
欠点		・A型のみ有効、B型には効果がない ・耐性ウイルスが多い ・中枢神経症状が多い	・10歳代原則禁忌	・5日間吸入する必要がある ・慢性呼吸器疾患患者では気管支痙攣が出現することがある	・成人では4回吸入する(1回10mgのため)	・小児適応がない(現在申請中)
薬価		50mg:32.4	1Cap:309.1 1g:237.2	1BL:168.7		300mg:5634
	成人総量		3091	1687		5634
発売日		1975年12月	2001年2月	2000年12月	近日発売予定	2010年1月